

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

地域の偉人等を活用したまちなか文化芸術・歴史空間の創生事業

2 地域再生計画の作成主体の名称

前橋市

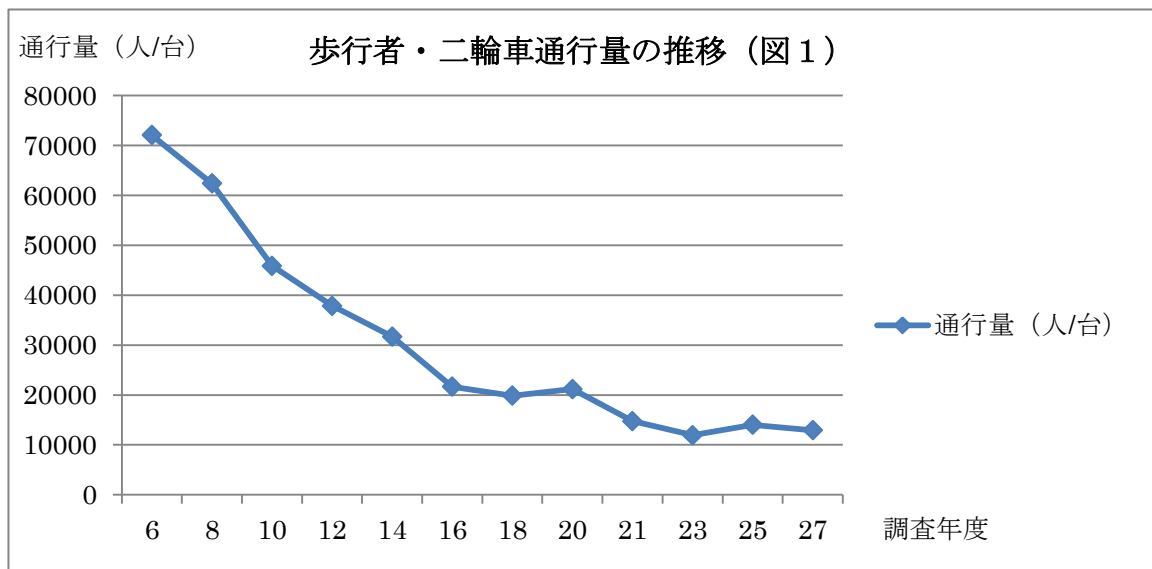
3 地域再生計画の区域

前橋市の区域の一部（中心市街地内の活性化区域及び上泉町周辺地区）

4 地域再生計画の目標

4-1 地域の現状

本市の人口は、2004 年をピークに人口減少局面へと転じ、2010 年に約 34 万人であった人口は 2060 年には約 22 万人まで減少すると見込まれている。また、かつてにぎわいの中心であった活性化区域において、歩行者・二輪車の通行量が平成 6 年度の 72,071 人から平成 27 年度の 12,942 人に減少するなど人通りの減少傾向が顕著である（図 1）。



※前橋市商店街通行量調査報告書より

※調査を実施している 28 箇所のうち代表的な 9 箇所を抜粋

4-2 地域の課題

商業統計調査による平成 19 年の活性化区域の小売業は、商店数 284 店（対市シェア 8.6%）、従業員数 1,577 人（対市シェア 7.2%）、年間商品販売額 1,595 千万円（対市シェア 4.2%）、売場面積 50,448 m²（対市シェア 10.8%）と集積度では市内最大を有している。

しかし、自動車利用を前提とした生活様式やそれに伴う大型店の郊外進出等により、人通りが減少したことで、平成14年から平成19年の5年間における年間商品販売額の伸び率が65.6%減と顕著な落ち込みを示しており、稼げる市街地とはかけ離れた現状となっている。

また、活性化区域内には JR 両毛線前橋駅と上毛電鉄中央前橋駅が立地しているが、近年の各駅の乗降客数はいずれも減少傾向にあり、来街者の減少による影響がうかがえる。

4-3 目標

本計画は、前橋市の拠点であり、経済・商業の中心である活性化区域を稼げる市街地に再生するため、以下に掲げる3つの事業を複合的に実施するものである。

まず、前橋市内に点在する観光文化施設を活性化区域内に集約し、萩原朔太郎^{※1}に特化した拠点づくりを行うことで、にぎわいの創出を図る。

また、前橋文学館やアーツ前橋、臨江閣（明治時代の近代和風迎賓館）を結ぶ歴史・文化芸術拠点である広瀬川河畔において、ライトアップやレジャー研究を通じたブランド向上と、河畔整備による魅力創造を行うことで、まちなか回遊の促進を図る。

さらに、上泉信綱（上泉伊勢守）^{※2}を中心とする地域の偉人等を活用した歴史空間の創生事業を行い、沿線にある上毛電鉄とタイアップし、中心市街地の東に隣接する桂萱地区内の上泉町周辺地区とまちなかを有機的に連結することで、観光客の増加と上毛電鉄等の公共交通機関の利用者増といった相乗効果を図る。

※1 「詩はただ病める魂の所有者と孤独者との寂しい慰めである」といい、ひたすら感情の世界を彷徨しつづけた、言葉そのもののいのちを把握した詩人として、日本の近代詩史上、無二の詩人。代表作『月に吠える』『青猫』等

（出展：三好達治編さん『萩原朔太郎詩集』岩波文庫）

※2 戦国時代、その武勇を武田信玄に認められ、自らが創出した新陰流を天皇・将軍に披露、最高の技を柳生石舟斎に印可相伝。日本の剣道史に燦然と輝く兵法家

（出展：前橋学ブックレット③『剣聖 上泉伊勢守』上毛新聞社）



※前橋市地域省エネルギービジョンより

【数値目標】

事業	朔太郎を活用したにぎわい創出事業	広瀬川魅力創造によるまちなか回遊促進事業	上泉信綱を活用した歴史空間の創生事業	年月
KPI	中心市街地観光施設入込数（前橋文学館、アーツ前橋）	活性化区域通行量	上泉駅の定期外乗降客数	
申請時	105,956人	12,942人	16,768人	現状値
初年度	110,000人	13,500人	16,900人	H29.3
2年目	115,000人	14,000人	17,000人	H30.3
3年目	120,000人	14,500人	17,100人	H31.3
4年目	130,000人	15,000人	17,200人	H32.3

※上毛電鉄は年々乗降客数が減少傾向にあるため、歴史空間の創生事業を契機に新たなブランドを創出し、乗降客数の増加を図ろうとするもの。

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2 (3) に記載

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

(1) 事業名：地域の偉人等を活用したまちなか文化芸術・歴史空間の創生事業

(2) 事業区分：まちづくり

(3) 事業の目的・内容

(目的)

本市の人口は、2004年をピークに人口減少局面へと転じ、2010年に約34万人であった人口は2060年には約22万人まで減少すると見込まれている。また、かつてにぎわいの中心であった活性化区域において、歩行者・二輪車の通行量の減少傾向が顕著である。

人通りが減少したことで、活性化区域内の年間商品販売額の落ち込み、区域内の公共交通利用の減少など、負のスパイラルから脱却できない状況となっている。

本計画は、前橋市の拠点であり、経済・商業の中心である活性化区域を稼げる市街地に再生するため、以下に掲げる3つの事業を複合的に実施するものである。

まず、前橋市内に点在する観光文化施設を活性化区域内に集約し、萩原朔太郎に特化した拠点づくりを行うことで、にぎわいの創出を図る。

また、文化芸術を育む広瀬川において、ライトアップやレジャー研究を通じたブランド向上と、河畔整備による魅力創造を行うことで、まちなか回遊の促進を図る。

さらに、上泉信綱を中心とする地域の偉人等を活用した歴史空間の創生事業を行い、デコトレインの改修費を市が支援するなど沿線にある上毛電鉄とタイアップし、上泉駅周辺地区とまちなかを有機的に連結することで、観光誘客と上毛電鉄等の公共交通機関の利用促進を図る。

(事業の内容)

①朔太郎を活用したにぎわい創出事業

本市は、日本近代詩の父と称される詩人「萩原朔太郎」を輩出した文化都市であり、前橋文学館をはじめ生家を活用した「萩原朔太郎記念館」や萩原朔太郎の詩碑など萩原朔太郎に関連した文化芸術施設等を複数有している。また、毎年最も優れた現代詩に対して賞を贈呈する「萩原朔太郎賞」や全国の小学生から高校生までを対象とした詩のコンクール「若い芽のポエム」、萩原朔太郎がこよなく愛したマンダリンの演奏を核としたイベント「朔太郎音楽祭」等、関係資料の展示のみならず萩原朔太郎顕彰事業や活用事業なども行ってきた。

しかし、これらの文化芸術施設等が前橋市内に点在しており、萩原朔太郎の顕彰及び活用事業についても、まちとしての魅力や観光的な視点での一体的な演出・整備がされていない課題がある。

そこで、近郊に所在する萩原朔太郎記念館を活性化区域に所在する前橋文学館周辺に移築し、さらに前橋文学館の増築工事を行うことで、萩原朔太郎に特化し

た拠点づくりを行うとともに、今年度から前橋文学館の館長に萩原朔美氏（萩原朔太郎の孫で大学教授）を迎え、既存事業に捕らわれない、まちとしての魅力や観光的な視点を取り入れた顕彰及び活用事業により、まちなかへ人を誘引させるための仕組みを構築する。

②広瀬川魅力創造によるまちなか回遊促進事業

広瀬川河畔は、前橋文学館やアーツ前橋、臨江閣（明治時代の近代和風迎賓館）を結ぶ歴史・文化芸術拠点であり、これまで地域特性を生かし、にぎわいの中にも品位を備えた交流空間を創生し、商業施設再集積の促進や本来のまちなかの利便性を生かした居住環境整備の推進・誘導につなげるなどの好循環に向けて土地区画整理事業や景観形成重点地区指定など様々な施策が行われてきたエリアである。

上述のとおり、萩原朔太郎に特化した文化芸術拠点づくりを行っていく中で、広瀬川や前橋文学館・萩原朔太郎記念館を一体的にライトアップする新たな演出や河畔整備、さらには文化芸術と歴史を核にまちなかを学習意欲や趣味、知的好奇心などを満足させるための視点を取り入れたレジャー研究により、土地区画整理事業などの既存事業との相乗効果を生み出し、まちなかの回遊性を向上させ、もってまちなかの交流人口の増加、滞留時間の延伸を図る。

③上泉信綱を活用した歴史空間の創生事業

前橋市ではこれまで上泉信綱を地域振興のツールとして活用してきたが、一部の愛好家に興味を持たれるのみであり、幅広い交流人口を呼び込むコンテンツとして活用ができていなかった。

しかし、クールジャパンとして日本の歴史文化が国際的に評価されており、その価値を見直す時勢があるなか、前橋市としてはこのキャラクターを広く発信し、新たなブランドとして押し出していくことが有用であると考えに至った。

こうした中、上泉伊勢守顕彰会や関係地域の経済界代表等からなる「剣聖上泉伊勢守信綱物語番組制作実行委員会（以下「実行委員会」という。）が本年8月に設立された。この実行委員会は、来春3月頃のBS放送による全国放映を目指して、上泉信綱を顕彰するドラマ制作に向けた準備を進めている。

そこで、市としては以下の3つの支援を講じることで、この取り組みを円滑かつ効果的に推進していく。

①個人版ふるさと納税の重点メニューに追加するとともに企業版ふるさと納税制度を活用し、この取り組みを広く周知する広報の支援

②負担金として金銭的支援

③実行委員会の事務局として運営面（番組制作の支援や番組放送の手続き、番組に関する周知活動など）での支援

また、テレビ放映後は、これまでの既存事業（上泉伊勢守顕彰会による生誕の

地での新陰流継承や小中学校における総合学習などの顕彰事業や官民協働のイベントである新陰流流祖祭の開催) などの相乗効果を図りつつ、「剣聖の里」としての魅力的な歴史空間の創生に向けた機運を醸成する。

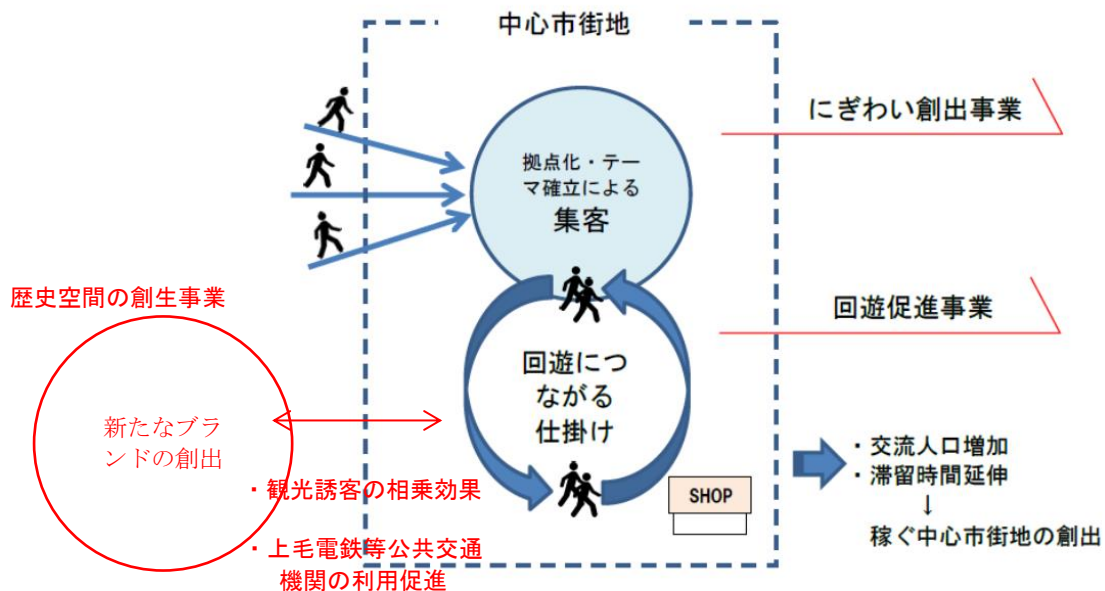
さらに、上毛電鉄の上泉駅ー中央前橋駅間（約3km）において、

①上泉信綱とタイアップしたデコトレインの運行

②中央前橋駅における上泉信綱及び上泉地区のパネル展示会の実施

など、上泉町周辺地区と中心市街地を観光的視点で結びつけるための取り組みを支援することで、地域の偉人で結ぶローカル線を活用した観光コースとして定着させ、観光客の増加と上毛電鉄等の公共交通機関の利用者増といった相乗効果を図る。

●事業イメージ



→各年度の事業の内容

・朔太郎を活用したにぎわい創出事業

初年度) 朔太郎記念館の移築工事を行う。

2年目) 前橋文学館の増築工事を行う。

「月に吠える」の発刊100周年を記念し、特別展示や講演会、図録作成を行う。

萩原朔太郎の生家のジオラマを作成し、移築した記念館等に展示する。

3年目) 前橋駅前に「萩原朔太郎と室生犀星の出会いの像」のモニュメントを設置するための調査を行う。

オリンピック文化プログラムとして萩原朔太郎や現代詩を活用した事業を行う。

- 4年目) 前橋駅前に「萩原朔太郎と室生犀星の出会いの像」のモニュメントを設置する。
オリンピック文化プログラムとして萩原朔太郎や現代詩を活用した事業を行う。

・ **広瀬川魅力創造によるまちなか回遊促進事業**

- 初年度) 広瀬川のライトアップ事業を実施する。
市内の観光マップを作成し、市民学芸員によるまちなか歴史観光ガイドを行う。
生糸(いと)のまち前橋発信事業「シルクサミット」を開催する。
- 2年目) 市民学芸員によるまちなか歴史観光ガイドを行う。
まちなか教会ライトアップ整備を行う。
近代和風の木造建築であり、本館と茶室は県指定、別館は市指定の重要文化財となっている臨江閣を活用した展示の調査を行う。
生糸(いと)のまち前橋発信事業「シルクサミット」を開催する。
前橋の藩主となった名門四大名家を顕彰する「四公サミット」を開催する。
- 3年目) 広瀬川河畔の回遊促進整備を行う。
市民学芸員によるまちなか歴史観光ガイドを行う。
石柱等によるヒストリックランドマークの整備を行う。
元国立原蚕種製造所であり「糸の町」前橋のシンボルである蚕糸記念館を活用した展示の調査を行う。
生糸(いと)のまち前橋発信事業「シルクサミット」を開催する。
前橋の藩主となった名門四大名家を顕彰する「四公サミット」を開催する。
- 4年目) 広瀬川河畔の回遊促進整備を行う。
市民学芸員によるまちなか歴史観光ガイドを行う。
石柱等によるヒストリックランドマークの整備を行う。
生糸(いと)のまち前橋発信事業「シルクサミット」を開催する。
前橋の藩主となった名門四大名家を顕彰する「四公サミット」を開催する。

・ **上泉信綱を活用した歴史空間の創生事業**

- 初年度) 2時間のテレビドラマ「(仮称)上泉伊勢守信綱物語」を制作し、放映するため、市として個人版及び企業版ふるさと納税制度を活用した広報支援、負担金での金銭的支援(番組制作費や番組放映料、番組広報活動費用など)、実行委員会の事務局として運営面

(番組制作の支援や番組放送の手続き、番組広報活動など)での支援を複合的に行う。

2年目) 上泉地区の歴史空間「剣聖の里」へ向けた取り組みの支援(番組のパブリックビューイングやDVD化による図書館での貸し出し事業等)

上泉信綱とタイアップしたデコトレインの運行

3年目) 上泉地区の歴史空間「剣聖の里」へ向けた取り組みの支援(駅前看板・マップやのぼり旗の設置等)

上泉信綱とタイアップしたデコトレインの運行

4年目) 上泉地区の歴史空間「剣聖の里」へ向けた取り組みの支援(全国に向けた効果的な発信とオリンピックを視野に入れた訪日外国人観光客の取り込み等)

上毛電鉄中央前橋駅構内での上泉信綱及び上泉地区に関するパネル展示会等実施



(4) 地方版総合戦略における位置付け

本市の総合戦略である「県都まえばし創生プラン」においては、まちなか文化芸術・歴史空間の創生を定めており、本事業はこれらを総合的に実施する事業である。また、総合戦略の基本目標として20-24歳の市外転出超過数(現状△251人→H32 △118人)を定めており、これに向けた施策として交流人口の増加を掲げている。本事業は、この目標及び施策の達成に寄与するものである。

(5) 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

事業	朔太郎を活用したにぎわい創出事業	広瀬川魅力創造によるまちなか回遊促進事業	上泉信綱を活用した歴史空間の創生事業	年月
KPI	中心市街地観光施設入込数（前橋文学館、アーツ前橋）	活性化区域通行量	上泉駅の定期外乗降客数	
申請時	105,956人	12,942人	16,768人	現状値
初年度	110,000人	13,500人	16,900人	H29.3
2年目	115,000人	14,000人	17,000人	H30.3
3年目	120,000人	14,500人	17,100人	H31.3
4年目	130,000人	15,000人	17,200人	H32.3

※上毛電鉄は年々乗降客数が減少傾向にあるため、歴史空間の創生事業を契機に新たなブランドを創出し、乗降客数の増加を図ろうとするもの。

(6) 事業費

(単位：千円)

朔太郎を活用したにぎわい創出事業	年度	H28	H29	H30	H31	計
	事業費計		75,000	83,000	7,000	25,000
区分	委託料	0	11,000	6,000	4,000	21,000
	工事請負費	75,000	70,000	0	20,000	165,000
	需用費	0	2,000	1,000	1,000	4,000

広瀬川魅力創造によるまちなか回遊促進事業	年度	H28	H29	H30	H31	計
	事業費計		10,600	10,500	40,500	25,500
区分	委託料	9,000	8,000	8,000	3,000	28,000
	工事請負費	0	0	30,000	20,000	50,000
	需用費	1,600	2,500	2,500	2,500	9,100

上泉信綱を活用した歴史空間の創生事業	年度	H28	H29	H30	H31	計
	事業費計		122,000	1,000	1,000	1,000
区分	負担金※	122,000	1,000	1,000	1,000	<u>125,000</u>

※H28 負担金＝実行委員会への番組制作費や番組放映料、番組広報活動費用などに係る負担金

※H29 以降は、実行委員会（または実行委員会に代わる上泉伊勢守顕彰会などの本件活動を担う地元団体等）への新たな取り組みに対する事業負担金

(7) 申請時点での寄附の見込み

(単位：千円)

朔太郎を活用した にぎわい創出事業	年度	H28	H29	H30	H31	計
	事業費計	75,000	83,000	7,000	25,000	190,000
	寄附額計	100	100	100	100	400
寄附法人	(株)親広産業	100	100	100	100	400

広瀬川魅力創造に よるまちなか回遊 促進事業	年度	H28	H29	H30	H31	計
	事業費計	10,600	10,500	40,500	25,500	87,100
	寄附額計	100	100	100	100	400
寄附法人	(株)親広産業	100	100	100	100	400

上泉信綱を活用し た歴史空間の創生 事業	年度	H28	H29	H30	H31	計
	事業費計	122,000	1,000	1,000	1,000	125,000
	寄附額計	50,000	100	100	100	50,300
寄附法人	製造業	5,000	100	100	100	5,300
	建設業	5,000				5,000
	小売業	5,000				5,000
	製造業	15,000				15,000
	建設業	10,000				10,000
	小売業	10,000				10,000

(8) 事業の評価の方法 (PDCA サイクル)

(評価の手法)

KPI の達成状況について、庁内組織である創生本部及び産官学金労言の各分野の専門家で構成する有識者会議並びに議会による検証を行い、検証結果を踏まえた事業の改善を図る。

(評価の時期・内容)

毎年9月ごろに、創生本部及び有識者会議において、KPI の達成状況の検証を行う。

(公表の方法)

目標の達成状況については、市 HP で公表する。

(9) 事業期間 平成 28 年 9 月～平成 32 年 3 月

5-3 その他の事業

該当なし

6 計画期間

地域再生計画認定の日から平成 32 年 3 月 31 日まで

7 目標の達成状況に係る評価に関する事項

7-1 目標の達成状況に係る評価の指標

KPI の達成状況について、庁内組織である創生本部及び産官学金労言の各分野の専門家で構成する有識者会議並びに議会による検証を行い、検証結果を踏まえた事業の改善を図る。

7-2 目標の達成状況に係る評価の時期及び評価を行う内容

毎年 9 月ごろに、創生本部及び有識者会議において、KPI の達成状況の検証を行う。

7-3 目標の達成状況に係る評価の公表の手法

目標の達成状況については、市 HP で公表する。